



## 週間情報



No.2632

発行日 平成26年8月19日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 電話 03(3234)1321

### 消防本部の動き

#### 行事

#### ◆ 稲毛浅間神社祭礼での消防特別警備を実施

##### 千葉市消防局（千葉）

千葉市消防局稲毛消防署では、平成26年7月14日（月）、15日（火）の2日間、稲毛浅間神社の祭礼に伴い、地元消防団員の協力も得て消防特別警備を実施しました。

稲毛浅間神社は、西暦808年、富士山本宮浅間大社の御分霊を奉斎したのが起源とされており、鎌倉時代は房総半島を中心に栄えた大豪族である千葉氏の尊崇が厚く、毎年同日に大祭が行われています。

千葉市火災予防条例の一部改正（本年8月1日施行）に伴い、露店等は対象火気器具毎に消火器の設置が義務付けられることになりました。今年は約450の露店が出店され、大勢の人で賑わうことが予想されたため、条例施行前でしたが、祭り実行委員会を通じて消火器の設置等について事前に申し入れを行い、祭礼当日に巡回確認を実施しました。ガソリン携行缶の設置場所（直射日光を避けて日陰に置く等）や取り扱い（圧力調整ねじを緩めてからキャップを開ける等）については周知徹底されていることが確認できましたが、消火器については業務用消火器ではなくエアゾール式簡易消火器具を設置している露店が多く見受けられたため、今後の課題としました。

結果的に特筆する災害事案もなく、市民も安心して祭りを楽しんでいました。今後も不測の事態が生じないよう万全の態勢で備えていきます。



【露店に対する巡回確認の様子】

#### ◆ 催し物開催場所の巡回を実施

##### 座間市消防本部（神奈川）

座間市消防本部では、7月中旬から自治会の夏祭りなどの催しや神社の祭礼に開設されている露店の火気器具の使用状況と消火器の設置状況を確認するため、7月末日までに市内7か所の巡回を行いました。

また、当市消防本部では当市防火安全協会が保有する粉末消火器を、貸出範囲を定めたうえで自治会などの催しを中心に貸し出しを行っています。7月末日現在で、延べ23本の消火器を貸し出しました。



【催し物の開催場所の巡回の様子】

## ◆ 消防少年団宿泊研修を実施

### 埼玉西部消防局（埼玉）

埼玉西部消防局入間消防署では、平成26年7月26日（土）、27日（日）の2日間、入間市青少年活動センターにおいて、入間市消防少年団宿泊研修を実施しました。

この宿泊研修は、毎年夏休みに実施しており、避難所生活を疑似体験することで普段の生活では感じられない不自由さ、限られた資材のなかで他者と協力し生活することの大変さを学びます。

炊き出し訓練では、火起こし体験とカレー作りを実施しました。火起こし器を使用した火起こしに団員たちは真剣な眼差しで取り組んでいました。また、自分たちで切った野菜で作ったカレーを残さず食べ、この日一番の笑顔を見せてくれました。就寝場所設置訓練では、団員同士で協力し合い、意見を出しながら自分たちの寝床を作成しました。

この研修を通じて、将来の地域防災の担い手として自助・共助の精神が、団員たちのなかにより一層強まったことと思います。



【消防少年団宿泊研修の様子】

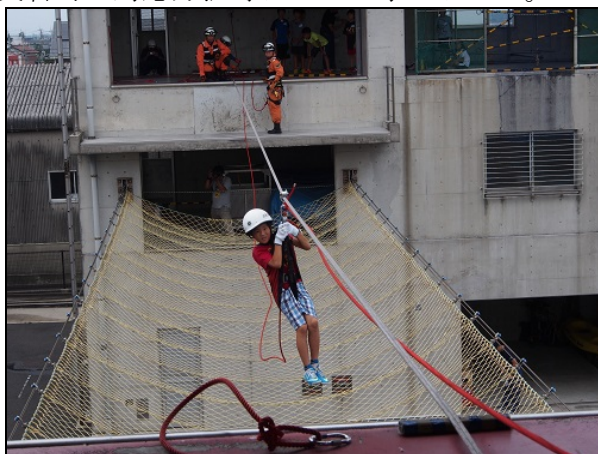
## ◆ 第29回夏休み消防一日体験学習を開催

### 出雲市消防本部（島根）

出雲市消防本部では、平成26年8月1日（金）、第29回夏休み消防一日体験学習を開催しました。

各地域で火災予防に取り組んでいる4年生以上の小学生と消防職員が一体となり、相互の触れ合いを通じて、より深い消防理解と防火意識を育み高めていくことを目的としたものです。

この体験学習では、水消火器を使った的当てゲーム、バケツリレー、煙体験、タンク車を使った放水体験、ロープ渡過体験、起震車を使った地震体験、保存食による非常食体験などを実施し、災害時の対応方法等について学びました。



【第29回夏休み消防一日体験学習の様子】

## ◆ 「夏休みわくわく消防体験学習」を実施

### 那覇市消防局（沖縄）

那覇市消防局では、平成26年8月4日（月）、5日（火）、一泊二日の日程で小学生30名を対象に「夏休みわくわく消防体験学習」を実施しました。

この体験学習は、「協働のまちづくり」の一環として、少年期から火災予防・防災に関する知識を身に付けさせ、学校や各家庭における火災の防止を図るとともに、地域で子どもを育む環境づくりの一助を目的に実施したものです。

体験学習では、各種災害を想定した訓練体験、はしご車搭乗、野営を想定した自炊体験、小学校周辺の消防団との夜間防火パトロール、エアートントでの宿泊体験などを実施し、楽しみながら火災予防・防災に対しての知識を学びました。



【「夏休みわくわく消防体験学習」の様子】

## 研 修 等

## ◆ 第5回緊急通報対応英語研修会を開催

### 京田辺市消防本部（京都）

京田辺市消防本部では、平成26年7月28日（月）、29日（火）の2日間、第5回緊急通報対応英語研修会を開催しました。

当市消防本部管内の同志社大学ではグローバルコミュニケーション学部が開設されたことから留学生が増加しています。管内の外国人からの119番通報、救急現場等に対応するため、市役所の国際交流員及び外国語指導助手を講師に招き、「火事」か「救急」かの尋ね方、落ち着かせ方等を学び、緊急出動を想定した例文をもとに、緊急通報や現場で使う英会話能力の向上を図りました。



【第5回緊急通報対応英語研修会の様子】

## そ の 他

### ◆ 表示マーク交付式を開催

#### 名古屋市消防局（愛知）

名古屋市消防局中消防署では、8月1日に表示マーク交付式を開催し、当中区区内に約100件ある表示対象物のうち、表示基準の適合を確認した10対象物に対し表示マークを交付しました。

ホテル・旅館を対象とした新たな表示制度が本年4月からスタートし、表示基準に適合したホテル等については、平成26年8月1日（金）から表示マークが掲出できることとなりました。当市消防局ではより安全を確保するために、書類審査に加え現地確認を実施するとともに、夜間想定の検証訓練結果も表示基準の審査に加えています。

今後も、表示マーク交付の申請がされたホテル等については順次審査を実施し、表示基準の適合を確認できた対象物について順次適マークを交付する予定です。



【表示マーク交付式の様子】

## 国 等 の 動 き

### 消防庁通知等

#### ◆ 建築物防災週間（平成26年度上期）の実施について（8月11日、消防予第332号）

予防課長より、各都道府県消防防災主管部長、東京消防庁・各指定都市消防長あてに次のとおり通知されましたのでお知らせします。

標記について、「建築物防災週間（平成26年度上期）の実施について」（平成26年7月29日付け国住指第1515-2号）により、国土交通省住宅局長から別添（省略）のとおり協力依頼がありましたので、お知らせします。

各都道府県におかれましては、貴管内の市町村又は消防本部に対してこの旨周知されるようお願いいたします。

○ 全文は、消防庁ホームページ

([http://www.fdma.go.jp/concern/law/tuchi2608/pdf/260811\\_yo332.pdf](http://www.fdma.go.jp/concern/law/tuchi2608/pdf/260811_yo332.pdf)) に掲載されています。

【問い合わせ先】 予防課予防係  
担当：増沢・岡

## ◆ 心肺蘇生等の応急手当に係る実習の実施について（８月１３日、消防救第１４５号）

救急企画室長より、各都道府県消防防災主管部（局）長あてに次のとおり通知されましたのでお知らせします。

平素から救急行政の推進について御理解、御協力いただき、御礼申し上げます。

今年度も「救急の日」及び「救急医療週間」の実施について」（平成２６年８月１３日付け消防救第１４４号）に記載のとおり、救急業務の普及啓発運動を全国的に実施することとしました。

今年度は非医療従事者による自動体外式除細動器（ＡＥＤ）の使用が認められて１０年という節目の年となります。この間に、ほぼ全ての学校においてＡＥＤが設置されるようになり、また、これまで全国の学校で心肺蘇生法やＡＥＤを用いた講習も広く実施されてきました。しかしながら、いまだ学校の管理下で発生した重大事故において、心肺蘇生及びＡＥＤ装着が行われなかったことにより、児童生徒が死亡するといった事案が発生しており、特に高等学校（応急手当の講習実施率７１．７％）を中心に、これから社会に出て応急手当を自ら行う場面に居合わせる可能性が高くなる生徒に対する講習を受ける機会の更なる充実が必要であると考えられます。

そこで今年度は、文部科学省と消防庁が連携して、別紙（省略）のとおり、救急医療週間において、ＡＥＤの使用を含む応急手当講習受講の普及啓発を進め、講習実施に向けた取組を始める一つの契機として、救急医療週間から今年度末までを「救おう！みぢかな命！」応急手当講習受講キャンペーン期間と位置付けることとしました。

ついては、貴都道府県内市町村（消防の事務を処理する一部事務組合を含む。）に対してこの旨周知するとともに、特にＡＥＤの使用を含む応急手当講習の実施について学校等から要請があった場合には、可能な限り御協力いただくよう、御指導のほどお願いします。

また、別紙（省略）に記載の、救命入門コース、ｅラーニングを活用した講習、分割講習、応急手当普及員の養成講習等についても、学校における応急手当の普及啓発がより図りやすくなると考えられるため、積極的に御活用いただくよう御指導のほどお願いします。

### ○ 全文は、消防庁ホームページ

([http://www.fdma.go.jp/emergency\\_rescue/kyukyu\\_kyujo\\_tuchi/2014/20140813-1.pdf](http://www.fdma.go.jp/emergency_rescue/kyukyu_kyujo_tuchi/2014/20140813-1.pdf)) に掲載されています。

【問い合わせ先】救急企画室  
担当：橋課長補佐、立花、大迫

## 報道発表

## ◆ 平成26年7月の熱中症による救急搬送の状況（８月１１日）

平成26年7月の熱中症による全国の救急搬送の状況（確定値）を取りまとめましたので、その概要を公表します。

### 概 要

- 平成26年7月の全国における熱中症による救急搬送人員数は18,407人でした。これは6月の救急搬送人員数4,634人と比べると4倍増となっています。7月20日以降、梅雨明けの地域が広がり、7月25日前後に気温が35度を超える猛暑日が多く続いたことが搬送人数の増加に影響していると考えられます。昨年度の同月と比較すると減少（平成25年7月は23,699人であり5,292人減）していますが、梅雨明けが昨年より遅かったことが影響していると考えられ、今後、気温が上昇してくる可能性が高いため、引き続き警戒が必要です。
- 救急搬送人員数の年齢区分をみると、高齢者（65歳以上）が8,541人と最も多く、次いで成人（18歳以上65歳未満）6,907人、少年（7歳以上18歳未満）2,791人、乳幼児（生後28日以上7歳未満）167人の順となっています。

- 搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く11,802人、次いで中等症5,967人、重症392人、死亡31人となっています。
- 都道府県別人口10万人当たりの搬送人員数は、沖縄県が最も多く23.82人であり、次いで和歌山県23.60人、鹿児島県23.10人の順となっています。
- 全国各地で連続した真夏日が観測されるようになりました。熱中症を予防するには、こまめな水分補給、エアコン・扇風機を用いた室温調整及び無理せず適度に休憩を行うこと等が大切です。屋内でも熱中症に十分注意を払いましょう。また、高齢者は体温を下げるための体の反応が弱くなっており、自覚がないのに熱中症になる危険があります。小さな子供は汗腺が未熟なため、体温調整がしにくいという特徴があります。周囲の方の気遣いが熱中症の発生予防につながります。
- 以下のHPにて、熱中症による救急搬送状況の速報値を毎週発表するとともに、熱中症予防策等について紹介した「熱中症対策リーフレット」を公表しています。また、ツイッターを通じた注意喚起も行っています。

消防庁熱中症情報

[http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9\\_2.html](http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html)

熱中症対策リーフレット

<http://www.fdma.go.jp/html/data/tuchi2605/pdf/260514-1.pdf>

【資料】

[平成26年7月の熱中症による救急搬送状況](#)

- 全文は、消防庁ホームページ

([http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h26/2608/260811\\_1houdou/01\\_houdoushiryou.pdf](http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h26/2608/260811_1houdou/01_houdoushiryou.pdf)) に掲載されています。

【問い合わせ先】救急企画室  
担当：寺谷、平井、大迫

## 情報提供

### ◆ 平成26年度「救急の日」「救急医療週間」啓発用ポスターを作成

一般財団法人救急振興財団

一般財団法人救急振興財団では平成26年度「救急の日」及び「救急医療週間」啓発用ポスターを作成し、全国の消防本部に配布しました。

ポスターの電子データ提供につきましては企画調査課までお問い合わせ下さい。

※ なおポスターのデータ形式はPDFもしくはJPEGに限ります。

【問い合わせ先】企画調査課

担 当：松本、引間、石井

住 所：東京都八王子市南大沢4丁目6番地

電 話：042-675-9931（代表）

FAX：042-675-9050

E-mail：[kikaku-info@fasd.or.jp](mailto:kikaku-info@fasd.or.jp)



## ◆ 2014（第18回）JFFW交流会のご案内

### —「私らしく輝く～長く働き続けるために～」—

#### JFFW交流会事務局

“JFFW”は、Japan Fire Fighting Women's Clubの略で、女性消防吏員が中心となり研修会等を実施しています。

毎年実施される交流会では、全国から消防職員が自主的に集まり勉強会や情報交換を行い、消防本部の枠を越え消防職員相互の親睦を深めるとともに自己研鑽を図っております。

女性消防吏員は昭和44年に誕生して以来、45年の歴史の中で全国的に採用されてきましたが、消防吏員数に占める割合は2.1%（平成25年）とまだまだ少ない状況にあります。

また結婚、出産、育児、健康問題、職場の人間関係などの問題を解決できずに、離職してしまう女性も後を絶たず、残念な声が聞こえてきます。

そこで今回は「私らしく輝く～長く働き続けるために～」をテーマに消防の仕事をライフワークとして、長く働き続けるための課題と解決策を皆さんと話し合うことにしました。

- 1 日 時 平成26年9月13日（土）10時30分から17時00分
  - 2 会 場 〒231-0005 神奈川県横浜市中区本町1-6 横浜市開港記念会館
  - 3 参加者 全国消防職員及びOB等支援者で参加を希望する方  
参加申し込み定員 200名（定員になり次第締め切らせていただきます）
  - 4 参加費 交流会4000円程度（昼食・資料代等）・懇親会4000円程度
  - 5 内 容  
第1部 シンポジウム「私らしく輝く～長く働き続けるために～」（10：45～13：00）  
出演者 慶応大学商学部教授 吉川 肇子氏  
神奈川大学法学部教授 幸田 雅治氏  
奈良県立医科大学付属病院 伊藤 雪絵氏ほか  
第2部 グループ懇談会（昼食をとりながら）（13：10～15：20）  
パネラーを交えてテーマに分かれ自由に意見交換を行う  
第3部 特別講演 『運命の主人公はあなた』（15：30～16：30）  
（株）BEプラウド代表取締役 志道 不二子 氏  
第4部 懇親会 （18：00～）中華街 金香樓（横浜市中区山下町200-9）
  - 6 その他 内容詳細、参加申し込みはホームページから <http://www7a.biglobe.ne.jp/~club-jffw>
- ※ 問合わせ先：JFFW交流会事務局  
川崎消防署 熊谷／044-223-0119  
相模原市消防局 消防総務課 野口／042-751-9116
- ※ Eメール：[club-jffw@xrh.biglobe.ne.jp](mailto:club-jffw@xrh.biglobe.ne.jp)

## ◆ 平成26年度消防技術安全所検証・研究成果発表会の開催

#### 東京消防庁（東京）

東京消防庁消防技術安全所では、検証・研究成果を発表し、消防行政の効果的推進を図るとともに、消防防災科学の発展に寄与することを目的として、検証・研究成果発表会を下記のとおり開催致しますのでご案内いたします。

#### 記

- 1 日時 平成26年9月19日（金） 9時15分～12時00分（8時45分開場）
- 2 場所 東京消防庁消防学校5階講堂・ホワイエ（東京都渋谷区西原二丁目51番1号）
- 3 参加申込 参加を希望される場合は、「平成26年度消防技術安全所検証・研究成果発表会参加申込書」により、平成26年9月1日（月）までに、下記問合わせ先の電子メール又はFAXでお申し込み下さい。
- 4 プログラム  
(1) 開会 9：15～ 消防技術安全所長あいさつ（於：5階講堂）

(2) 成果発表 9:20～10:20 (於:5階講堂)

- ア 9:20～ 圧縮酸素形循環式呼吸器に関する検証
- イ 9:35～ 劣化した油脂等の酸化発熱に関する検証
- ウ 9:50～ 暑熱条件下での主観的評価と客観的指標の関係性について
- エ 10:05～ 放水による消火活動が困難な閉鎖空間における効果的な消火方法の検証  
(消火薬剤による基礎的消火実験について)

(3) ゲスト発表 10:20～10:35 (於:5階講堂)

硫酸貯蔵タンク爆発火災調査 (千葉市消防局 下田 直史 氏)

(4) 休憩/ポスターセッション 10:35～10:50 (於:5階ホワイエ)

- ア アルミ合金製動力消防ポンプの性能及び耐久性等の検証
- イ 回転釜からの出火に対する危険性と消火限界に関する検証
- ウ 各種詰物素材別によるふとん火災の燃焼性状に関する検証
- エ 定量的な再現性を有する火災シミュレーションの構築に関する検証
- オ 金属酸化物の識別に関する検証
- カ 当庁が備蓄している非常用食糧(職員用)に関する検証
- キ 救急活動における身体的負荷モデルに関する検証

(5) 特別講演 10:50～12:00 (於:5階講堂)

『国際大型イベント下の危機管理について』

講師 国立大学法人横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授 野口 和彦 先生

〔概要〕昨年9月に東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決定しました。国際大型イベントを開催する東京における危機管理に関し、その要点についてのご講演をいただきます。

5 その他

- (1) 当日は、消防学校1階受付までお越し下さい。
- (2) 会場の都合上、駐車場がございませんので、あらかじめご了承ください。
- (3) 開催案内及び参加申込書は、東京消防庁消防技術安全所ホームページに掲載しています。  
(<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-gi-jyutuka/event01.html#2>)

【問い合わせ先】

東京消防庁 消防技術安全所  
消防技術課 消防技術係 尾寄 高橋  
東京都渋谷区幡ヶ谷一丁目13番20号  
電話:03-3466-1515 (内線6342・6347)  
FAX:03-3468-8732  
Eメール:[gi-jyutuka3@tf.d.metro.tokyo.jp](mailto:gi-jyutuka3@tf.d.metro.tokyo.jp)

※ 消防庁各課室の直通電話番号は(<http://www.fdma.go.jp/neuter/about/tel.html>)に掲載されています。

週間情報では、各本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せ下さい。

**週間情報への投稿は企画課へ！**

TEL 03-3234-1321 FAX 03-3234-1847 E-mail: [weekly@fcaj.gr.jp](mailto:weekly@fcaj.gr.jp)